

「第一回 常盤橋のあり方検討会」の結果報告について

常盤橋の今後のあり方について、様々な視点から、総合的な意見を伺う「第一回 常盤橋のあり方検討会」を令和7年3月26日に開催したので、その結果について報告するもの。

1 開催概要

- (1) 日 時：令和7年3月26日（水） 9時30分から11時30分まで
場 所：北九州市役所本庁舎15階 15C会議室
- (2) 構成員：地元自治会、地域活動団体、専門家等(歴史、木橋、まちづくり、観光)
Z世代課パートナー
- (3) 内 容
 - ・常盤橋の歴史及び現在の常盤橋の損傷状況や技術的な所見（専門家による説明）
 - ・歴史・文化性、まちづくりや観光資源の観点及び今後のあり方等に関する意見交換

2 専門家からの説明

- (1) 常盤橋（小倉城下）の歴史について
 - ・江戸時代、小倉城下町で紫川を渡るには、常盤橋と豊後橋を通るしかなかった。
 - ・常盤橋は長崎街道の起点に位置し、九州の諸大名が参勤交代で通った。
 - ・シーボルト「NIPPON」にも常盤橋が描かれている。
 - ・小倉という場所は、徳川幕府にとっても、九州を抑えるための一番の要所であった。
 - ・江戸の日本橋に対する九州の日本橋というぐらい、非常に重要な場所であった。
- (2) 常盤橋の損傷状況や技術的な所見
 - ・調査日 令和7年3月11日（火）
 - ・調査項目 近接目視、打音、触診、穿孔抵抗値試験
 - ・所 見
 - ☐橋げた上部は、機能している箇所と機能していない箇所がある。
 - ☐直ちに落橋する可能性は低いが、他都市では落橋事例がある。
 - ☐修理したとしても、安心して使い続けることは困難である。
 - ☐今の常盤橋のような全て木製の橋を造ることはできない(材料入手困難)。
 - ☐橋げたを計画的に取り外すことが、安全でコスト的に有利である。
 - ☐橋脚などを再利用することで、コスト縮減を図れる可能性がある。

3 意見交換

構成員の方々から、様々な意見を伺った。その中で、以下の内容について、意見の一致が見られた。

- ・常盤橋は、どのような形であっても残してほしい。
 - ・木製の橋げたは補修が困難であるため、安全性を考えると早めに撤去すべき。
 - ・架け替えてしっかり活用し、皆に愛され維持管理してもらえるような取組みをすべき。
- (その他の意見)
- ・歴史的な背景を考慮して、どうしていくか考えてほしい
 - ・若い世代の心を掴まないと、100、200年先までは残っていない
 - ・気になるのはコスト面である
 - ・歴史、観光、土木を勉強する学生の学びの場として活用してほしい
 - ・小倉城や常盤橋周辺を観光エリアにできるような取組みとPRをしてほしい

4 今後の進め方

- ・検討会での意見を受け、架け替えを軸に、ソフト面での活用を含め、常盤橋のあり方検討会で議論を深めていく。
- ・市民の安全・安心を担保するため、木製部分は取り外すなど、早期の対策を検討する。

(参考)

構成員名簿(敬称略・五十音順)

氏名	所属・役職等
うえだ しゅう 植田 詩生	株式会社福岡リビング リビング北九州編集長
うちだ あきら 内田 晃	北九州市立大学 副学長 地域創生学群 教授
えびはら ゆうたろう 海老原 佑太郎	九州工業大学 工学部 建設社会工学科 学生 (Z世代課パートナー)
おかもと まさる 岡本 勝	京町第一町内会 会長
しばやま しなこ 柴山 品子	長崎街道小倉城下町の会 理事
つじ としゆき 辻 利之	We Love 小倉協議会 会長
ながお まきのり 永尾 正剛	元 北九州市立自然史・歴史博物館 参事
まつもと ひろあき 松本 裕昭	西小倉校区自治連合会 会長
わたせ りの 綿瀬 鈴乃	西南学院大学 商学部 経営学科 学生 (Z世代課パートナー)
わたなべ ひろし 渡辺 浩	福岡大学 工学部 教授

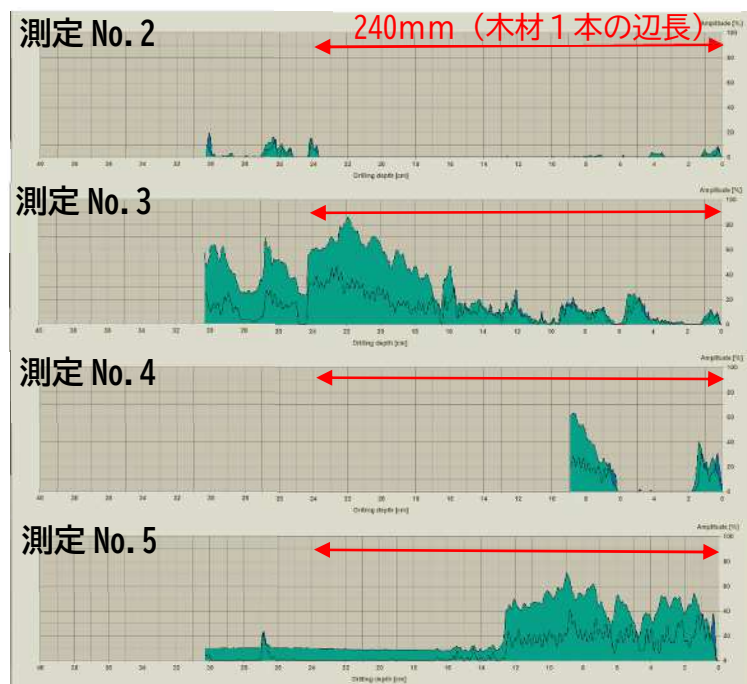
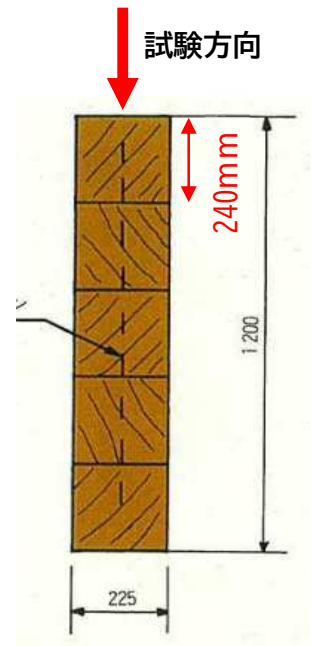
常盤橋の調査概要について



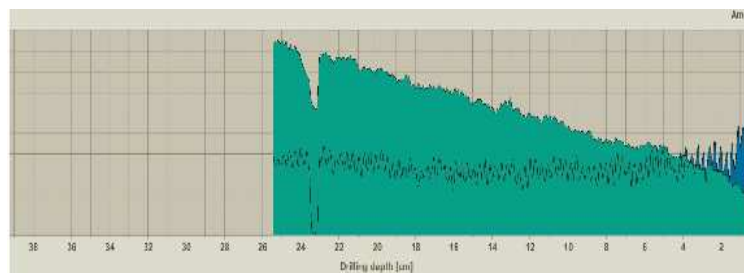
【触診状況】



【穿孔抵抗値試験】



※常盤橋の結果：面積（緑色）が小さい⇒健全ではない



【参考】健全な場合の結果（面積が大きい）

常盤橋の歴史について



「西国内海名所一覽」に描かれた「肥前長寄街道」



シーボルト「NIPPON」に描かれた常盤橋（福岡県立図書館蔵）



豊国名所（北九州市立歴史博物館発行）より抜粋
西勢溜



小倉城の縄張り区分
（「小倉藩土屋敷絵図」に加筆・着色）

【令和7年3月11日 建設建築員会報告資料より再掲】

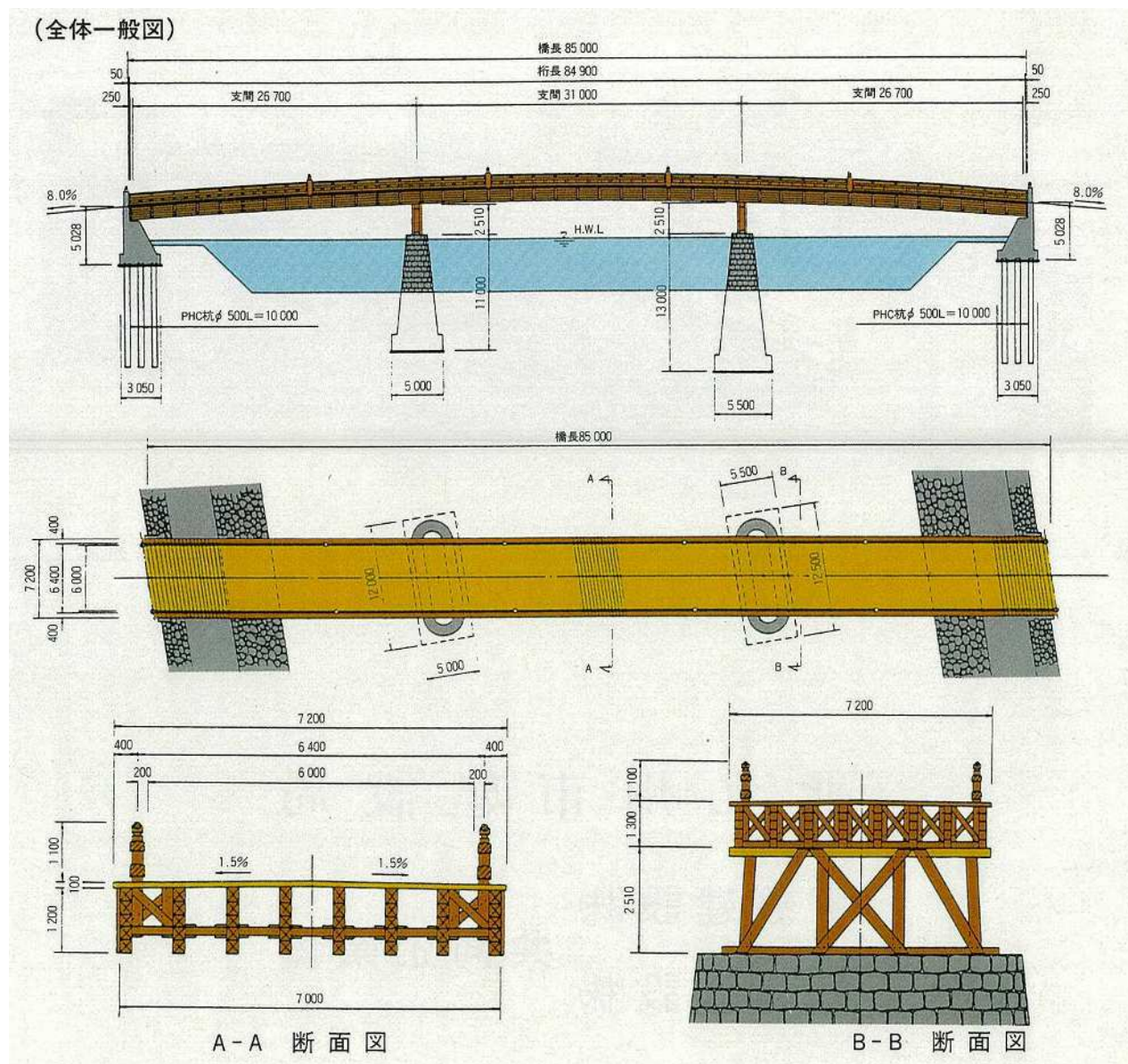
常盤橋（木の橋）の概要

橋梁形式：3径間連続ダウエル積層桁(歩行者専用)

供用開始：平成7年4月23日(事業期間：平成4年度～平成6年度)

諸元：橋長85m 幅員7.2m(有効幅員6m)

使用材料：木部（ボンゴシ、チーク）、鋼部（ステンレス）

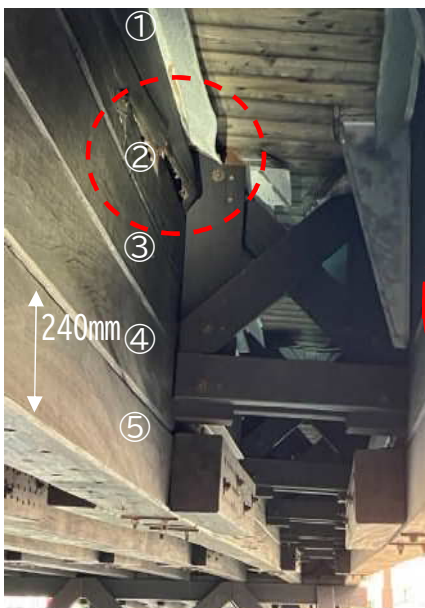


【令和7年3月11日 建設建築員会報告資料より再掲】

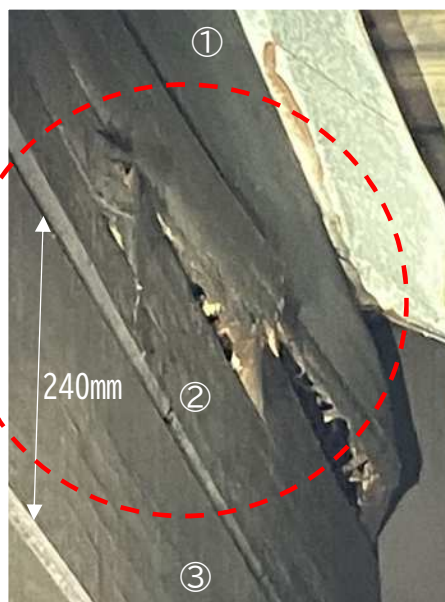
常盤橋の損傷状況



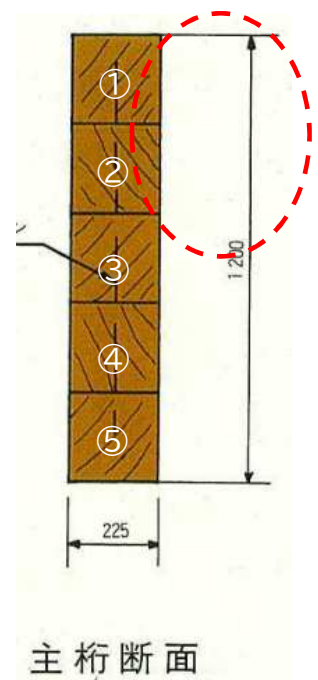
【勝山橋（南側）から撮影】



損傷状況(上流側左岸)



損傷状況（拡大写真）



主桁断面